

要 望 書

このたびの大地震・大津波により甚大な被害を受けた被災者の皆様にお見舞いを申し上げますと共に、復旧・復興に全力を尽くしておられる石巻市長をはじめ石巻市関係者の方々に敬意を表します。

石巻市の沿岸部は壊滅的な状態になっておりますが、門脇町二丁目には奇的に流出・倒壊をまぬかれた土蔵が一棟残されています。明治三〇年に建築された本間英一家の土蔵です。押し寄せた激流と流出家屋の激突に耐え、瓦礫に埋もれるように残った土蔵の痛々しい姿は、津波の激しさを物語っています。

この土蔵は歴史的建造物としても貴重なものですが、大津波に耐えて残ったこの土蔵を、私たちは大震災・大津波の記憶を未来に伝える貴重なメモリアルとして、さらに石巻復興の力強いシンボルとして残したいと考えております。そのためには今後検討されていく石巻市の復興計画・都市デザインのなかに、この土蔵を震災メモリアルとして保存・継承していく旨を盛り込んでいただきたく希望するものであります。

なお、本間家土蔵の修復費用等については、石巻若宮丸漂流民の会および石巻千石船の会が中心となって全国から寄付を募りたいと考えております。

以上、石巻市長および石巻の復興計画にかかわる関係者の方々にお願いを申し上げます次第です。よろしくご高配のほど、お願い申し上げます。

以上

平成二十三年五月二五日

石巻若宮丸漂流民の会

会長 木村成忠

石巻千石船の会

会長 邊見清二

石巻市長

亀山 紘殿

大津波に耐えた本間家土蔵

